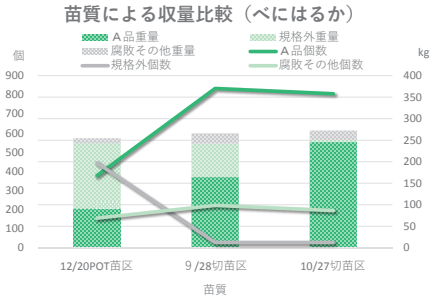
Ⅲ．サツマイモ

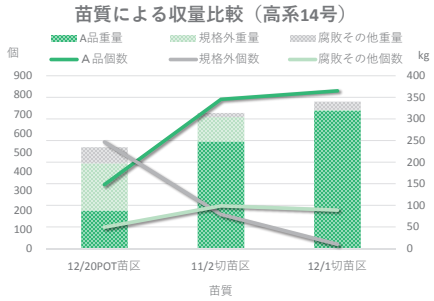
道内の栽培農家は本州から定植用切り苗を購入しており、自家苗生産の可能性を探る試験を行いました。

品種は「べにはるか」と「高系14号」を用い、継代育成したポット苗と時期別に挿し枝し生育した親株から採取した切り苗との収量結果の比較が右の図になります。

「べにはるか」の育苗法の違いによる収量性では、10/27親苗定植区が上芋（A品＋規格外品）収量では他府県産並みの収量（上芋250kg/a）を得ることが出来ました。一方ポット苗では、収量が上がらず丸芋の規格外が多かったことから、この育苗法は不適と思われます。

また「高系14号」でもポット苗で規格外収量が一番多く、基準収量に満たない結果となりました。一方で遅く増殖した親株からの切り苗を利用するほど増収し、A品だけで300kg/aを超えたことから、11月中に親株を定植出来れば定植用切り苗の自家生産が可能と思われます。





2　イチゴ品種「サトホロ」の栽培方法検証調査

市内で継続して栽培されているイチゴ品種「サトホロ」の露地栽培におけるマルチ資材の適性検証を行いましたので、調査結果をお知らせします。※②③は白黒ダブルマルチ使用

【栽培の概要】

試 験 区：①グリーンマルチ区、②黒マルチ区、③白マルチ区
栽植密度：333株/a（畝間200㎝×株間30㎝（2条植え））
定　　植：平成30年8月21日
収穫期間：令和元年6月11日～7月12日

【生育の概要】

平年に比べて4～6月の気温が高く、日照時間が長かったため、収穫は平年より早い時期から開始となりました。収穫最盛期となった6月下旬に多雨があり、雨にあたって規格外品となった果実が多く発生しました。

	葉数(枚)	丈(㎝)
グリーンマルチ区	30.1	40.7
黒マルチ区	32.5	41.5
白マルチ区	25.4	38.5

表　収穫開始時期の生育調査

【結果の概要】

収穫開始時期の生育調査では、黒マルチ区で葉数が多い傾向がみられ、白マルチ区で葉数が少なく草丈も低い傾向がみられました。一果重平均は、収穫期間を通してグリーンマルチ区で低い傾向がみられ、全収量も一番少なくなりました。他の区と比較して腐敗や灰色かび病の発生が多かった白マルチ区では、規格内収量が最も低くなりました。黒マルチ区では、全収量、規格内収量ともに多く、今回の調査では黒マルチによる栽培で生育がよく、収量が上がる結果となりました。

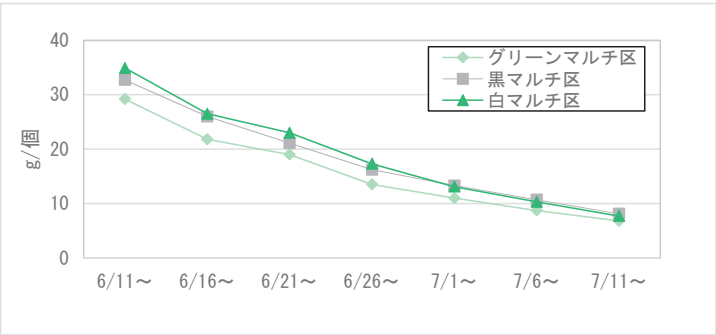


図１　一果重平均

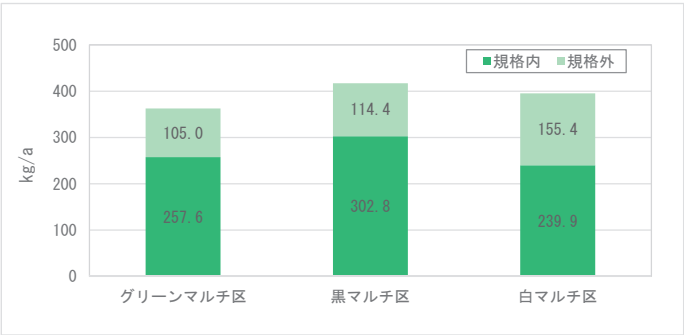


図２　収量

問い合わせ先　札幌市農政部農業支援センター地域支援係　Tel.011-787-2220